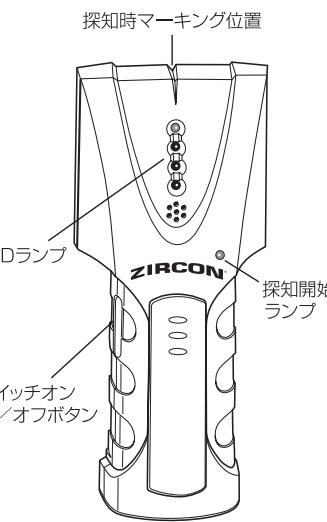


壁裏探知機 F19 STUDSENSOR™

壁裏探知機F19は、特許付きセンサーにより非金属の壁を通して、木製、金属製スタッド(梁)や柱の位置を正確に探知します。柱の端をわかりやすく表示するLEDランプを備え、またブザー音も発します。

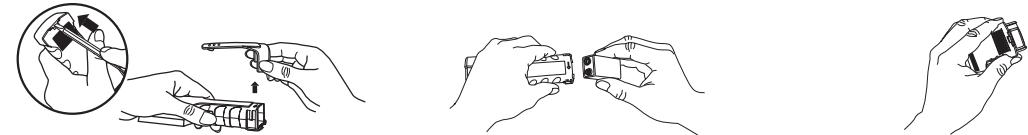
壁裏探知機F19は、石膏ボード、合板、床板を通して柱を探知でき、各ご家庭に一つあれば大変便利なツールです。壁裏探知機F19は電磁波を発しません。



◆電池の交換方法

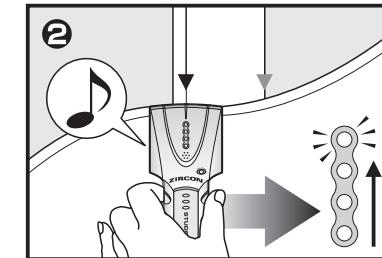
購入時は、お試し用9ボルト電池が本体にセットされていますが、通常より寿命が短くなっています。
より正確な探知を行うためには、作業される前に新しい電池(市販品)と取り替えることをお勧めします。

- ① ◇ドライバーなどで矢印方向へおしながら、図のように上側にクリップ部をスライドして下さい。
- ② 9V電池の端子側を奥に向けて入れます。
小さい端子の方が、プラスです。
③ クリップを元の位置に取付けます。
(電池の種類、使用状態により異なります)



◆操作方法

壁裏探知機F19を壁面に付け、側面のスイッチを押しながらスライドさせます。

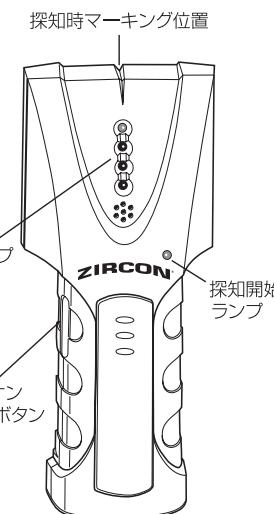


赤いランプが下から点き始め、1番上の緑のランプが点き、ブザー音が鳴った所が探知物の端です。

壁裏探知機 F19 STUDSENSOR™

壁裏探知機F19は、特許付きセンサーにより非金属の壁を通して、木製、金属製スタッド(梁)や柱の位置を正確に探知します。柱の端をわかりやすく表示するLEDランプを備え、またブザー音も発します。

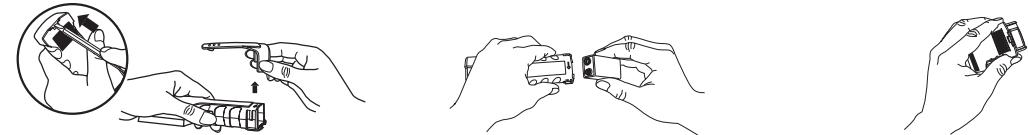
壁裏探知機F19は、石膏ボード、合板、床板を通して柱を探知でき、各ご家庭に一つあれば大変便利なツールです。壁裏探知機F19は電磁波を発しません。



◆電池の交換方法

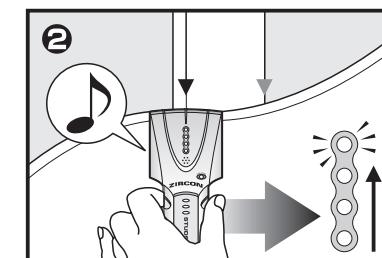
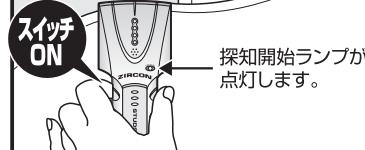
購入時は、お試し用9ボルト電池が本体にセットされていますが、通常より寿命が短くなっています。
より正確な探知を行うためには、作業される前に新しい電池(市販品)と取り替えることをお勧めします。

- ① ◇ドライバーなどで矢印方向へおしながら、図のように上側にクリップ部をスライドして下さい。
- ② 9V電池の端子側を奥に向けて入れます。
小さい端子の方が、プラスです。
③ クリップを元の位置に取付けます。
(電池の種類、使用状態により異なります)



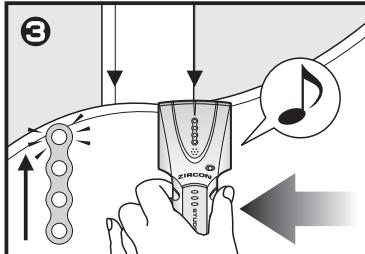
◆操作方法

壁裏探知機F19を壁面に付け、側面のスイッチを押しながらスライドさせます。

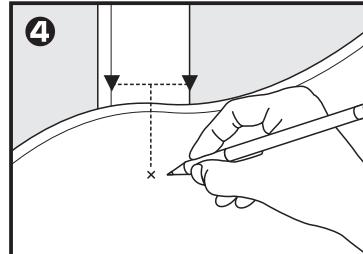


赤いランプが下から点き始め、1番上の緑のランプが点き、ブザー音が鳴った所が探知物の端です。

◆操作方法



そのまま動かしランプが消えたら逆方向に戻り、再度緑のランプが点きブザー音が鳴った所が探知物のもう一方の端です。



②と③で検知した位置の中心が柱の中心になります。

状況	考えられる原因	解決法
ランプが点滅を始め、ピーッという音が連続的に鳴る。	・壁内の密度の高い位置、又は柱等の隠れた物の上から探知を開始した。 ・ユニットが壁にぴったり付いていない。 ・探知中に本体が、ぶれたり壁から浮き上がったりした。	・探知開始場所を左右どちらかに数センチ移動させ、オン／オフスイッチボタンを押し直しもう一度探知を開始する。 ・表面の荒い壁などには、紙などを当ててその上から探知をして本体が滑らかに移動するようにする。 ・壁裏探知機F19は必ず柱や探知物と平行になるように持ち、それらに直交するように移動させます。
ランプが表示される場所が多くなる。	・柱以外の物を検出している。 ・電気配線や金属製／プラスチック製の管が壁の裏面かその近くにある可能性がある。 ・探知している壁材床材の密度が均一でない。主な原因として湿気、虫食い、気泡等が考えられる。	・探知した物が、縦方向の柱かどうかを確認するには、印を付けた2地点の上下30cmの所で同じようにランプが点灯するか確認して下さい。 ・金属製・プラスチック製の管などが壁の裏面か、その近くにある可能性がある場合、釘打ちや穴あけ・切断などの作業の際には、十分注意して下さい。 ・安全のため電気配線の近くの釘打ち、切断、穴あけ作業はおやめください。 ・安全のため電気配線の近くの釘打ち、切断、穴あけ作業はおやめください。

⑤壁裏の間柱以外のものを探知することができます。

探知したものが縦方向の間柱かどうかを確認するため、最初に探知した2地点の上下30cmのところでも探知作業をし、縦の同じ位置で同様にランプが点灯するか確認してから、穴あけ等の作業をして下さい。

感知できない壁

- 金属製(鉄・アルミ・ステン)・ラスなどを含む壁。
- 金属繊維を含む壁や壁紙・土壁・セメント壁。
- 壁紙を貼り立ての湿った壁・セラミック。
- タイル・カーペット・厚みや密度が不均一な壁。
- 密度の高い壁。

注意事項

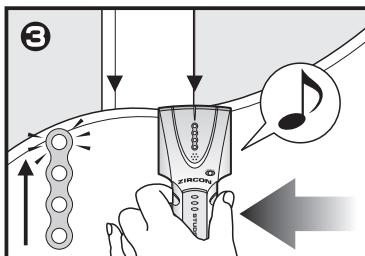
柱や壁の材質・厚み・密度・湿気、また静電気や壁裏の状況によって誤作動を起こし正確に探知できない場合があります。

！注意

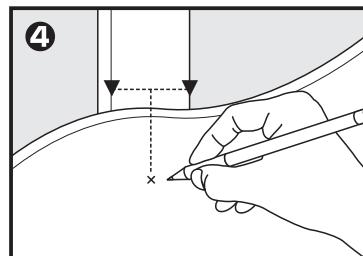
- 金属製・プラスチック製の管などが壁の裏面か、その近くにある可能性がある場合、釘打ちや穴あけ・切断などの作業の際には、十分注意して下さい。
- 安全のため電気配線が近くにある可能性がある場合、危険ですので釘打ち、切断、穴あけ作業はおやめ下さい。
- 探知があいまいであったり、探知位置にバラつきがある場合は、穴あけ等の作業はしないで下さい。

P/N 64123 Rev A 12/09

◆操作方法



そのまま動かしランプが消えたら逆方向に戻り、再度緑のランプが点きブザー音が鳴った所が探知物のもう一方の端です。



②と③で検知した位置の中心が柱の中心になります。

状況	考えられる原因	解決法
ランプが点滅を始め、ピーッという音が連続的に鳴る。	・壁内の密度の高い位置、又は柱等の隠れた物の上から探知を開始した。 ・ユニットが壁にぴったり付いていない。 ・探知中に本体が、ぶれたり壁から浮き上がったりした。	・探知開始場所を左右どちらかに数センチ移動させ、オン／オフスイッチボタンを押し直しもう一度探知を開始する。 ・表面の荒い壁などには、紙などを当ててその上から探知をして本体が滑らかに移動するようにする。 ・壁裏探知機F19は必ず柱や探知物と平行になるように持ち、それらに直交するように移動させます。
ランプが表示される場所が多くなる。	・柱以外の物を検出している。 ・電気配線や金属製／プラスチック製の管が壁の裏面かその近くにある可能性がある。 ・探知している壁材床材の密度が均一でない。主な原因として湿気、虫食い、気泡等が考えられる。	・探知した物が、縦方向の柱かどうかを確認するには、印を付けた2地点の上下30cmの所で同じようにランプが点灯するか確認して下さい。 ・金属製・プラスチック製の管などが壁の裏面か、その近くにある可能性がある場合、釘打ちや穴あけ・切断などの作業の際には、十分注意して下さい。 ・安全のため電気配線の近くの釘打ち、切断、穴あけ作業はおやめください。 ・安全のため電気配線の近くの釘打ち、切断、穴あけ作業はおやめください。

⑤壁裏の間柱以外のものを探知することができます。

探知したものが縦方向の間柱かどうかを確認するため、最初に探知した2地点の上下30cmのところでも探知作業をし、縦の同じ位置で同様にランプが点灯するか確認してから、穴あけ等の作業をして下さい。

感知できない壁

- 金属製(鉄・アルミ・ステン)・ラスなどを含む壁。
- 金属繊維を含む壁や壁紙・土壁・セメント壁。
- 壁紙を貼り立ての湿った壁・セラミック。
- タイル・カーペット・厚みや密度が不均一な壁。
- 密度の高い壁。

注意事項

柱や壁の材質・厚み・密度・湿気、また静電気や壁裏の状況によって誤作動を起こし正確に探知できない場合があります。

！注意

- 金属製・プラスチック製の管などが壁の裏面か、その近くにある可能性がある場合、釘打ちや穴あけ・切断などの作業の際には、十分注意して下さい。
- 安全のため電気配線が近くにある可能性がある場合、危険ですので釘打ち、切断、穴あけ作業はおやめ下さい。
- 探知があいまいであったり、探知位置にバラつきがある場合は、穴あけ等の作業はしないで下さい。

P/N 64123 Rev A 12/09